

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-133	A-179	16-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）			
Reliability and Validity of a Two-Question Alcohol Screen in the Pediatric Emergency Department. 小児救急部における 2 つの質問によるアルコールスクリーニングの信頼性と妥当性			
執筆者			
Spirito A, Bromberg JR, Casper TC, Chun TH, Mello MJ, Dean JM, Linakis JG; Pediatric Emergency Care Applied Research Network.			
掲載誌			
Pediatrics. 2016 Dec;138(6). DOI: 10.1542/peds.2016-0691			
キーワード		PMID	
小児救急病院、アルコール、スクリーニング、信頼性、妥当性		27940674	
要 旨			
目的： 2011 年にアルコール乱用およびアルコール中毒研究所（NIAAA）は、アルコールリスクを判定するために、アルコール検査ツールを開発した。このツールは簡潔にできているため、小児のスクリーニングにも有用と考えられる。本研究の目的は、小児救急病院で NIAAA の 2 質問画面のテストの信頼性と有効性を確認することである。			
方法： 対象は、小児救急医療調査ネットワーク（PECARN）に参加している米国全土の 16 の施設にて治療された 12-17 歳の 4,838 名が含まれた。NIAAA の 2 質問画面やアルコール、薬物使用、およびリスク行動の他の尺度を含む基準評価バッテリーは、タブレットコンピュータで自己管理された。1 週間後、サブサンプル（n = 186）に NIAAA 2 質問スクリーンを再施行して、テスト-再テストの信頼性を評価した。並行妥当性は、子供のための診断インタビュースケジュール（DISC）のアルコールおよび物質使用障害モジュールで評価された。統計解析は、NIAAA の 2 質問画面は 2 つの異なるバージョンが存在するため、サンプルを全体として中学校と高校の別々の年齢別に分析した。信頼性は、クラス内相関係数（ICC）、NIAAA の 2 質問画面のリスクカテゴリと DISC 診断（yes / no）のオッズを比較したロジスティック回帰モデルを使用して、並行妥当性を検証した。			
結果： テスト-再テストの再現性は中程度から良好な検査再現性が実証された。中等度以上のリスクの分類は、すべての生徒のアルコール使用障害（AUD）の診断を決定するために、感度と特異度とを合わせたものが最も優れていた。中学生の過去 1 年間の飲酒は、精神障害の診断と統計マニュアル、第 5 版の基準に従って、AUD の診断の確率を高めたが、高校時代の最適カットオフは過去 1 年間で 3 以上であった。中等学校の被験者の間で陽性のアルコール使用障害識別テストのスコアを決定する飲酒日の最適なカットオフは 1 日以上であったが、高校の被験者の最適なカットオフは 2 日以上であった。			
結論： NIAAA の 2 質問画面は小児救急病院におけるアルコールスクリーニングの簡潔で有効なアプローチと考えられる。自己管理は、多忙な臨床診療でスクリーニングするのに有用な方法であり、青年からのより正確な応答を引き出す潜在的な利点を有する。しかし、NIAAA 画面は、アルコール使用の問題のリスクがある可能性のある青少年を特定する際の感度を最大にすることから、より保守的なカットオフスコアを使用することができ、または更なる評価のために思春期を参照すべきかどうかを判断するために追加の質問が必要となる。			